

令和4年度  
和歌山信愛大学  
自己点検・評価報告書

令和5年6月

## 自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、平成31年4月に開学した和歌山信愛大学の令和4年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

令和5年6月30日

令和5年6月  
和歌山信愛大学

理事長

森田 登志子

学長

森田 登志子

ALO

秋吉 博之

## 【目次】

1. 令和 4 年度開講授業科目における自己点検・評価
2. 令和 4 年度の委員会等の活動報告
3. 令和 4 年度 F D ・ S D 活動

# 1. 令和 4 年度開講授業科目における

## 自己点検・評価

## 【1年生授業科目】

		年度	2022	2022	2022
		期	前期	前期	前期
Q	1	授業者	大山輝光	小林 康宏	森崎陽子
Q	1	授業名	情報処理論	日本語表現	スポーツと健康 I（講義）
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	1	0	1
Q	2	2. 演習	0	1	0
Q	2	3. 実験	0	0	1
Q	2	4. 実習・実技	0	0	1
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	1	1	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q	3	3. レポート	0	1	1
Q	3	4. その他 具体的に：			
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	1	1
Q	4	2. やや思う	1	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	0	1	1
Q	5	2. やや思う	1	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	1	0
Q	6	2. やや思う	1	0	1
Q	6	3. あまり思わない	0	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	0	1	1
Q	7	2. やや思う	1	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	1
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	授業に意欲的に参加できるよう、適宜、演習を取り入れながら授業を行った。		授業内容をより日常に活用できるものにしたいと考え使用するデータ等を工夫した。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	1
Q	9	2. やや思う	1	1	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0	1
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的			
Q	10	具体的事例	シラバスの記載内容を精査し、授業等で活用する機会を増やしたい。	授業スライドの字を読みやすくする	「授業内容・方法」「授業の成果」は平均よりやや高い結果となった。更に授業内容に健康に関する身近な課題等をとり入れることや、運動生理の専門内容をより分かりやすく伝える等の工夫を凝らし成果を上げた。

		年度	2022	2022	2022
		期	前期	前期	前期
Q	1	授業者	木本毅	森下 順子	岸田正幸
Q	1	授業名	教職論	保育原理	教育課程総論
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	1	1	1
Q	2	2. 演習	0	0	0
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	1	1	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q	3	3. レポート	1	1	0
Q	3	4. その他 具体的に：			期末試験6割 小レポート4割
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	0	0
Q	4	2. やや思う	0	1	0
Q	4	3. あまり思わない	1	0	1
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	0	0
Q	5	2. やや思う	0	1	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	1
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	0	0
Q	6	2. やや思う	0	1	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0	1
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	0
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	1
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	毎回講義のレポートを提出させるとともに講義の初めに前回講義に係るQ.&A.を行い復習・定着に努めている。	授業内容が非常に多い教科のため、浅く広くを心掛けている。学生の理解度を確認しながら進めている。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	0	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	1	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的			
Q	10	具体的事例	記載事項無し。	盛りだくさんの授業内容を整理する必要があると感じた。	わかりやすい授業となるように、授業をゆつくりとしたペースで進めたい

		年度	2022	2022	2022
		期	前期	前期	前期
Q	1	授業者	溝口希久生・八代健志	秋吉博之	溝口希久生
Q	1	授業名	音楽 I	生活 I	鍵盤演奏入門
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	1	0	0
Q	2	2. 演習	0	1	0
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	1	0	1
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	1	0	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q	3	3. レポート	1	0	0
Q	3	4. その他 具体的に：	授業中の演奏の技能や表現活動を評価する。		各授業の演奏技能と最終回の演奏発表会を評価する。
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	1	0
Q	4	2. やや思う	1	0	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	1	0
Q	6	2. やや思う	0	0	1
Q	6	3. あまり思わない	1	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例		全体への問いかけ、机間巡視等により学生の状況を把握しながら、授業内容を検討しながら進めた。	MK教室と音楽室で2人の教員による指導を行っている。初心者が授業ごとに連続的な学びができるように工夫している。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	0	1	1
Q	9	3. あまり思わない	1	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的			
Q	10	具体的事例		概ね達成できたが、この結果を他の授業科目に活かしていきたい。	授業テキストができたので、予習、復習により力を入れて、連続的な学びを継続させたい。



		年度	2022
		期	前期
Q	1	授業者	桑原義登
Q	1	授業名	発達心理学
Q	2	授業の形態	
Q	2	1. 講義	1
Q	2	2. 演習	0
Q	2	3. 実験	0
Q	2	4. 実習・実技	0
Q	3	成績評価の方法	
Q	3	1. 期末試験	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1
Q	3	3. レポート	0
Q	3	4. その他 具体的に：	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q	4	1. そう思う	0
Q	4	2. やや思う	1
Q	4	3. あまり思わない	0
Q	4	4. そう思わない	0
Q	4	5. 該当しない	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫	
Q	5	1. そう思う	0
Q	5	2. やや思う	1
Q	5	3. あまり思わない	0
Q	5	4. そう思わない	0
Q	6	シラバス等の工夫	
Q	6	1. そう思う	0
Q	6	2. やや思う	0
Q	6	3. あまり思わない	1
Q	6	4. そう思わない	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q	7	1. そう思う	0
Q	7	2. やや思う	1
Q	7	3. あまり思わない	0
Q	7	4. そう思わない	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例	
Q	8	具体的事例	発達検査などにおいて具体例を通した演習を取り入れた。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q	9	1. そう思う	0
Q	9	2. やや思う	1
Q	9	3. あまり思わない	0
Q	9	4. そう思わない	0
Q	10	改善点があれば 具体的	
Q	10	具体的事例	ご指摘があったので、字を丁寧に分かり易く書くように、またマイクの調整を心がけたい。

## 【2年生授業科目】

		年度	2022	2022	2022	2022
		期	前期	前期	前期	前期
Q	1	授業者	大山輝光	千森督子	千森督子・江口怜	小林康宏・鈴木晴久
Q	1	授業名	情報処理演習Ⅱ	地域生活文化	地域力再生論	国語(書写を含む)
Q	2	授業の形態				
Q	2	1. 講義	0	1	0	1
Q	2	2. 演習	1	0	1	0
Q	2	3. 実験	0	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0	0
Q	3	成績評価の方法				
Q	3	1. 期末試験	0	1	0	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1	1
Q	3	3. レポート	1	0	1	0
Q	3	4. その他 具体的に：				模擬授業
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q	4	1. そう思う	0	1	0	1
Q	4	2. やや思う	1	0	1	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫				
Q	5	1. そう思う	0	1	1	1
Q	5	2. やや思う	1	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫				
Q	6	1. そう思う	0	0	0	1
Q	6	2. やや思う	1	0	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	1	1	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q	7	1. そう思う	0	1	0	1
Q	7	2. やや思う	1	0	1	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例				
Q	8	具体的事例	事前に配布する授業資料の作成に際して、授業時はもちろん予習復習でも活用できるように配慮した。	課題回答を分析し、次週の最初に復習として回答例を紹介し、全員で共有できるようにした。とりわけ、本人に発表してもらうようにしたのは、臨場感が伴い高評価であった。	学生が主体的に参加できるようにグループ編成を工夫したり、希望するテーマを選択できるように工夫した。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q	9	1. そう思う	0	0	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1	1	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0	1
Q	9	4. そう思わない	0	0	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的				
Q	10	具体的事例	プログラミング演習等において、グループワークやディスカッションを取り入れるなど、理解の深化を促すよう工夫する。また、シラバスの記載内容を精査し、授業等で活用する機会を増やしたい。	シラバスの修正が必要と考えています。復習は課題提出で補えているが、予習をいかに取り入れていくのが今後の検討事項です。	シラバスの修正が必要と考えている。	

		年度	2022	2022
		期	前期	前期
Q	1	授業者	秋吉博之	小林 康宏
Q	1	授業名	理科	子どもの言葉
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	1	0
Q	2	2. 演習	0	1
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	0	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1
Q	3	3. レポート	0	1
Q	3	4. その他 具体的に：		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	1	1
Q	4	2. やや思う	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	1	1
Q	6	2. やや思う	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	全体への問いかけ、机間巡視等により学生の状況を把握しながら、授業内容を検討しながら進めた。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	1	0
Q	9	3. あまり思わない	0	1
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的		
Q	10	具体的事例	概ね達成できたが、観察・実験の時間をさらに増やす。	

		年度	2022
		期	前期
Q	1	授業者	村上凡子
Q	1	授業名	幼児理解の理論と方法
Q	2	授業の形態	
Q	2	1. 講義	1
Q	2	2. 演習	0
Q	2	3. 実験	0
Q	2	4. 実習・実技	0
Q	3	成績評価の方法	
Q	3	1. 期末試験	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1
Q	3	3. レポート	0
Q	3	4. その他 具体的に：	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q	4	1. そう思う	1
Q	4	2. やや思う	0
Q	4	3. あまり思わない	0
Q	4	4. そう思わない	0
Q	4	5. 該当しない	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫	
Q	5	1. そう思う	1
Q	5	2. やや思う	0
Q	5	3. あまり思わない	0
Q	5	4. そう思わない	0
Q	6	シラバス等の工夫	
Q	6	1. そう思う	1
Q	6	2. やや思う	0
Q	6	3. あまり思わない	0
Q	6	4. そう思わない	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q	7	1. そう思う	1
Q	7	2. やや思う	0
Q	7	3. あまり思わない	0
Q	7	4. そう思わない	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例	
Q	8	具体的事例	Q5～Q7に関する工夫は2点ある。1つ目は、予習復習を習慣化し、事前にある程度の知識や学習に対する能動的な姿勢をもち、授業に参加することを企図した。授業評価、また教職履修カルテの入力内容から、この取り組みは効果があったと判断する。予習は、事前に予習ノートを手書きで作成することである。予習ノートは事前に配信し、当日までに次の回のテーマ、重要用語や概念、学修内容を記載することを求めた。また、授業当日、ノートの内容をより充実させ、授業ノートを完成するという仕組みを導入した。2つ目は、学修成果の確認のため、授業の最後の時間帯に、学修内容の確認と定着を図るため、復習の時間を設けた。時間は、10分程度である。その課題、①グループ内で当番制により、復習問題を作成し、解答すること、②振り返りの記述である。課題①は必ず出題者の番が定期的に回ってくるため、その役割を果たすことで周りからの信頼を得ることができる。出題者、解答者の役割が変化するため、コミュニケーションの機会ともなっていた。課題①には意欲的に取り組んでいた。また基本的な知識の定着に関しても効果があった。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q	9	1. そう思う	0
Q	9	2. やや思う	0
Q	9	3. あまり思わない	1
Q	9	4. そう思わない	0
Q	10	改善点があれば 具体的	
Q	10	具体的事例	次年度に向けた改善点は、予習ノートの配信の時期を早めに行うこと、ノートづくりへの意欲を高めることである。それ以外は、2022年度と同様の方法で授業を展開する予定である。

## 【3年生授業科目】

		年度	2022	2022
		期	前期	前期
Q	1	授業者	木本毅	八代健志
Q	1	授業名	教師への道 I	音楽表現
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	1	0
Q	2	2. 演習	0	1
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	1	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1
Q	3	3. レポート	0	0
Q	3	4. その他 具体的に：		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	0	0
Q	4	2. やや思う	0	0
Q	4	3. あまり思わない	1	1
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	1	0
Q	5	2. やや思う	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	1
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	1	0
Q	6	2. やや思う	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	1
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	0
Q	7	2. やや思う	0	1
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	講義領域ごとに確認小テストを実施している。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	0	0
Q	9	3. あまり思わない	0	1
Q	9	4. そう思わない	1	0
Q	10	改善点があれば 具体的		
Q	10	具体的事例	記載事項無し。	

		年度	2022	2022
		期	前期	前期
Q	1	授業者	村上凡子	森下 順子
Q	1	授業名	特別支援教育・保育 I	子育て支援演習
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	0	0
Q	2	2. 演習	1	1
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	1	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1
Q	3	3. レポート	0	1
Q	3	4. その他 具体的に：		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	0	0
Q	4	2. やや思う	1	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	0	0
Q	5	2. やや思う	1	1
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	0	0
Q	6	2. やや思う	1	1
Q	6	3. あまり思わない	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	0	1
Q	7	2. やや思う	1	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	発達障害については基礎的な知識と原則的な対応の双方にわたって習得することを企図して、場面指導を導入した。特に両コースとも6月の施設実習、幼稚園実習後に、実際に出会った子どもたちの特性と力不足を感じた点について意見交流を行い、授業で演習形式で望ましい対応をグループで交流する時間を設けた。	具体例をもとに学生が理解しやすいよう心掛けた。 可能な限りグループワークを行った。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	0	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0
Q	9	4. そう思わない	1	0
Q	10	改善点があれば 具体的		
Q	10	具体的事例	次年度は担当しません。	教室が狭く、廊下も使用してグループワークを行った。 また、3年4年の授業であったため、理解度や経験に差があり難しかった。異学年授業の展開を工夫したい。

		年度	2022	2022
		期	前期	前期
Q	1	授業者	村上凡子	山本紀代
Q	1	授業名	教育相談支援	初等教科教育法算数
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	1	1
Q	2	2. 演習	0	1
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	1	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1
Q	3	3. レポート	0	0
Q	3	4. その他 具体的に：		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	0	1
Q	4	2. やや思う	1	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	1	0
Q	6	2. やや思う	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	1
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	Q5～Q7に関して、前年度と同様に取り組みを継続したが、他の担当科目「特別支援教育・保育Ⅰ」と関連づけ、様々なニーズのある児童が在籍するクラスでいじめを生じさせない取り組みについて検討する課題を導入した。授業がわかりづらく、思うような学修成果が得られないこともいじめを生む要因となるという知見を取り上げ、どの子どもも分かりやすい授業実践をさす学びのユニバーサルデザインの観点に基づく授業デザインとコミュニケーションの成立を企図する学級活動について学生が協同学習を行った。	模擬授業では、グループ毎(授業者グループ・児童役グループ・授業記録グループ)の参加方法について観点をより具体化させた
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的		
Q	10	具体的事例	学級活動の実践力を高めるため、アイスブレイキングを毎回グループで担当する活動を導入した。その手法に関してアイスブレイキングでグループ活動を導入する際に、グループの規模や活動の種類について目安を提示する必要性が高いことがわかったため、この点を次年度は改善したい。	

		年度	2022	2022	2022
		期	前期	前期	前期
Q	1	授業者	秋吉博之	山本紀代	森下 順子
Q	1	授業名	初等教科教育法理科	総合的な学習の時間指導論	保育実習 I (施設)
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	1	1	0
Q	2	2. 演習	0	1	0
Q	2	3. 実験	0	0	1
Q	2	4. 実習・実技	0	1	1
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	1	0
Q	3	2. 平常点 (小テスト・小レポート等)	1	1	1
Q	3	3. レポート	0	1	1
Q	3	4. その他 具体的に：			外部評価70%
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	1	1	0
Q	4	2. やや思う	0	0	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	0
Q	5	2. やや思う	0	0	1
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	1	0	0
Q	6	2. やや思う	0	0	1
Q	6	3. あまり思わない	0	1	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	全体への問いかけ、机間巡視等により学生の状況を把握しながら、授業内容を検討しながら進めた。	グループの数を減らし、KJ法を使った評価の時間を増やした。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的			
Q	10	具体的事例	授業の進度をやや速める。		



		年度	2022
		期	前期
Q	1	授業者	森下 順子
Q	1	授業名	保育実習指導 I (施設)
Q	2	授業の形態	
Q	2	1. 講義	0
Q	2	2. 演習	1
Q	2	3. 実験	0
Q	2	4. 実習・実技	0
Q	3	成績評価の方法	
Q	3	1. 期末試験	0
Q	3	2. 平常点 (小テスト・小レポート等)	1
Q	3	3. レポート	1
Q	3	4. その他 具体的に：	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q	4	1. そう思う	0
Q	4	2. やや思う	1
Q	4	3. あまり思わない	0
Q	4	4. そう思わない	0
Q	4	5. 該当しない	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫	
Q	5	1. そう思う	0
Q	5	2. やや思う	1
Q	5	3. あまり思わない	0
Q	5	4. そう思わない	0
Q	6	シラバス等の工夫	
Q	6	1. そう思う	0
Q	6	2. やや思う	1
Q	6	3. あまり思わない	0
Q	6	4. そう思わない	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q	7	1. そう思う	1
Q	7	2. やや思う	0
Q	7	3. あまり思わない	0
Q	7	4. そう思わない	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例	
Q	8	具体的事例	<p>実習に向けて、施設の理解を深めるための説明や社会的マナー等を、計画を立てて進める工夫をした。実習助手と毎回授業前に流れや配布物等の確認を行った。実習助手と常に学生についても共有することを心掛けた。また、提出物やレポートは、ひとりひとりに赤を入れ指導した。</p>
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q	9	1. そう思う	0
Q	9	2. やや思う	1
Q	9	3. あまり思わない	0
Q	9	4. そう思わない	0
Q	10	改善点があれば 具体的	
Q	10	具体的事例	<p>授業方法の工夫を心掛ける。</p>

## 【4年生授業科目】

		年度	2022	集計
		期	前期	
Q	1	授業者	木本毅	
Q	1	授業名	教師への道Ⅲ	
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	1	17
Q	2	2. 演習	0	11
Q	2	3. 実験	0	2
Q	2	4. 実習・実技	0	5
Q	3	成績評価の方法		0
Q	3	1. 期末試験	1	20
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	27
Q	3	3. レポート	0	12
Q	3	4. その他 具体的に：		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	0	11
Q	4	2. やや思う	0	12
Q	4	3. あまり思わない	1	5
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	1	18
Q	5	2. やや思う	0	8
Q	5	3. あまり思わない	0	2
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	1	10
Q	6	2. やや思う	0	9
Q	6	3. あまり思わない	0	7
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	21
Q	7	2. やや思う	0	6
Q	7	3. あまり思わない	0	2
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	既習事項（教育制度論、教職論）および教採教職 教養必修事項（教育心理学、教育原理、教育史） を重点的にまとめて講義した。併せて小論文及び 面接対策講座も実施した。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	1
Q	9	2. やや思う	0	18
Q	9	3. あまり思わない	0	6
Q	9	4. そう思わない	1	4
Q	10	改善点があれば 具体的		
Q	10	具体的事例	記載事項無し。	

## 【1年生授業科目】

		年度	2022	2022	2022
		期	通年	後期	通年
Q	1	授業者	森崎陽子・江口怜	大山輝光	森崎陽子
Q	1	授業名	ボランティア実習	情報処理演習Ⅰ	スポーツと健康Ⅱ(実技)
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	0	0
Q	2	2. 演習	0	1	0
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	1	0	1
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	1	0
Q	3	3. レポート	1	1	1
Q	3	4. その他 具体的に：	各自のレポートの他、ゼミ形式で研究発表を行いその評価を行っている。		各実技の評価と毎回の授業ノート、各自のマイトレニングの制作と実践の評価を行っている。
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	1	0	1
Q	4	2. やや思う	0	1	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	0	1
Q	5	2. やや思う	0	1	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	1	0	1
Q	6	2. やや思う	0	1	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	0	1
Q	7	2. やや思う	0	1	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	学生自ら地域の課題に取り組み対策を提案し実行している。	事前に配布する授業資料の作成に際して、授業時はもちろん予習復習でも活用できるよう配慮した。	一般教養科目ではあるが、将来リーダー、指導者となる学生の学びとして有益なものとなるように、運動の原理や指導法等もノートに整理し提出させている。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	1	0	1
Q	9	2. やや思う	0	1	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的			
Q	10	具体的事例	「授業への取り組み」「内容・方法」「成果」共に平均を大きく上回っている。改善工夫の具体事例にも挙げているが、其々のゼミごとに、学生主体の取り組みと地域との関わりがねらい通りに進められているものと考え。今後も学生の意志意欲を尊重し地域との関わりを深めていきたい。	グループワークやディスカッションを取り入れるなど、理解の深化を促すよう工夫する。また、シラバスの記載内容を精査し、授業等で活用する機会を増やしたい。	「授業への取り組み」「内容・方法」「成果」共に平均を大きく上回っている。この結果に甘んじず、常に対象に応じた授業内容の改善に取り組んでいきたい。

		年度 期	2022 通年	2022 通年	2022 通年
		授業者	森崎陽子・辻伸幸	大山・千森・森崎・村上 森下・山本・江口	辻伸幸・小田真弓
Q 1		授業名	教職キャリアデザイン	教職基礎ゼミナール	教職基礎実習
Q 2		授業の形態			
Q 2	1.	講義	1	0	0
Q 2	2.	演習	0	1	0
Q 2	3.	実験	0	0	0
Q 2	4.	実習・実技	0	0	1
Q 3		成績評価の方法			
Q 3	1.	期末試験	0	0	0
Q 3	2.	平常点（小テスト・小レポート等）	0	1	0
Q 3	3.	レポート	1	1	1
Q 3	4.	その他 具体的に：	特にありません。	発表等	実習の取り組み
Q 4		前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4	1.	そう思う	0	0	0
Q 4	2.	やや思う	1	1	1
Q 4	3.	あまり思わない	0	0	0
Q 4	4.	そう思わない	0	0	0
Q 4	5.	該当しない	0	0	0
Q 5		意欲的に参加できるような工夫			
Q 5	1.	そう思う	0	0	0
Q 5	2.	やや思う	1	1	1
Q 5	3.	あまり思わない	0	0	0
Q 5	4.	そう思わない	0	0	0
Q 6		シラバス等の工夫			
Q 6	1.	そう思う	0	0	0
Q 6	2.	やや思う	1	1	0
Q 6	3.	あまり思わない	0	0	1
Q 6	4.	そう思わない	0	0	0
Q 7		授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7	1.	そう思う	0	0	1
Q 7	2.	やや思う	1	1	0
Q 7	3.	あまり思わない	0	0	0
Q 7	4.	そう思わない	0	0	0
Q 8		改善や工夫の具体的事例			
Q 8		具体的事例	外部より講師を招き、各自のキャリアに具体性と広がりを持てるように工夫している。	授業資料及び授業時の説明において、具体例を示しながら詳しく説明するよう配慮した。	信愛幼稚園さんには参加させていただくことはできなかったが、子どもの遊びの様子をDVDで視聴し、KJ法の討議の仕方を知らせ、実施した。
Q 9		授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9	1.	そう思う	1	0	0
Q 9	2.	やや思う	0	0	1
Q 9	3.	あまり思わない	0	1	0
Q 9	4.	そう思わない	0	0	0
Q 10		改善点があれば 具体的に			
Q 10		具体的事例	思った以上に「授業への取り組み」「授業の内容・方法」「授業の成果」共に平均を下回っている。講師の選択も含め内容全般をより将来に希望を見出す講義内容に改善を試みたい。		学生にとって、コース選びの大切な実習であるということを再認識し、振り返りを行っていく必要がある。

		年度 期	2022 後期	2022 後期	2022 後期
		授業者	岸田正幸	原 康行	溝口先生
Q 1		授業名	教育方法論	保育の計画と評価	音楽Ⅱ
Q 2		授業の形態			
Q 2	1.	講義	1	1	0
Q 2	2.	演習	0	0	1
Q 2	3.	実験	0	0	0
Q 2	4.	実習・実技	0	0	0
Q 3		成績評価の方法			
Q 3	1.	期末試験	1	1	0
Q 3	2.	平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q 3	3.	レポート	0	0	1
Q 3	4.	その他 具体的に：	期末試験6割 小レポート4割		
Q 4		前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4	1.	そう思う	0	0	0
Q 4	2.	やや思う	0	1	0
Q 4	3.	あまり思わない	1	0	1
Q 4	4.	そう思わない	0	0	0
Q 4	5.	該当しない	0	0	0
Q 5		意欲的に参加できるような工夫			
Q 5	1.	そう思う	0	1	0
Q 5	2.	やや思う	0	0	0
Q 5	3.	あまり思わない	1	0	1
Q 5	4.	そう思わない	0	0	0
Q 6		シラバス等の工夫			
Q 6	1.	そう思う	0	0	0
Q 6	2.	やや思う	0	1	0
Q 6	3.	あまり思わない	1	0	1
Q 6	4.	そう思わない	0	0	0
Q 7		授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7	1.	そう思う	0	1	0
Q 7	2.	やや思う	0	0	0
Q 7	3.	あまり思わない	1	0	1
Q 7	4.	そう思わない	0	0	0
Q 8		改善や工夫の具体的事例			
Q 8		具体的事例		授業進行については、学生の集中力等を考慮し、前後の組み替えを行い、シラバス変更についても視覚的に各講義の始まりに伝えたが、もう少し丁寧に示す必要があったと感じる。次年度からは、シラバスの変更を全体的な枠組みも示し提示する。	
Q 9		授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9	1.	そう思う	0	1	0
Q 9	2.	やや思う	1	0	0
Q 9	3.	あまり思わない	0	0	0
Q 9	4.	そう思わない	0	0	1
Q 10		改善点があれば 具体的に			
Q 10		具体的事例	ICT関係授業や模擬授業に関してより工夫をしていきたい	学生の理解度の合わせ、丁寧に進めたが、後半に行ったワーク等を前半にも行い、学生が活動できる機会を設けた学習進行を意識したい。	

		年度	2022	2022	2022
		期	後期	後期	通年
Q	1	授業者	秋吉博之	秋吉博之	戸潤幸夫・八代健志
Q	1	授業名	生活Ⅱ	子どもと環境	子どもの表現Ⅰ
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	0	0
Q	2	2. 演習	1	1	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q	3	3. レポート	0	0	0
Q	3	4. その他 具体的に：			
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	1	1	0
Q	4	2. やや思う	0	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	1
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	0
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	1
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	1	1	0
Q	6	2. やや思う	0	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0	1
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	0
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	1
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	全体への問いかけ、机間巡視等により学生の状況を把握しながら、授業内容を検討しながら進めた。	全体への問いかけ、机間巡視等により学生の状況を把握しながら、授業内容を検討しながら進めた。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	1
Q	10	改善点があれば 具体的			
Q	10	具体的事例	概ね達成できた。この結果を他の授業科目にも活かしていきたい。	概ね達成できたが、製作発表と模擬保育への時間をさらに増やす。	

		年度	2022
		期	後期
Q	1	授業者	村上凡子
Q	1	授業名	教育心理学
Q	2	授業の形態	
Q	2	1. 講義	0
Q	2	2. 演習	1
Q	2	3. 実験	0
Q	2	4. 実習・実技	0
Q	3	成績評価の方法	
Q	3	1. 期末試験	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1
Q	3	3. レポート	0
Q	3	4. その他 具体的に：	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q	4	1. そう思う	0
Q	4	2. やや思う	1
Q	4	3. あまり思わない	0
Q	4	4. そう思わない	0
Q	4	5. 該当しない	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫	
Q	5	1. そう思う	1
Q	5	2. やや思う	0
Q	5	3. あまり思わない	0
Q	5	4. そう思わない	0
Q	6	シラバス等の工夫	
Q	6	1. そう思う	0
Q	6	2. やや思う	1
Q	6	3. あまり思わない	0
Q	6	4. そう思わない	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q	7	1. そう思う	1
Q	7	2. やや思う	0
Q	7	3. あまり思わない	0
Q	7	4. そう思わない	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例	
Q	8	具体的事例	<p>授業に意欲的に取り組んだことが学生のコメントからうかがえる。特に学生が望ましいと捉えた点は、2点ある。第1に発表当番などで公平に出番がある点である。第2に、自分たちの過去の学習者としての体験に基づいて、教授者として授業方法を検討する演習が、主体的に学ぶ方法として適切であったという点である。次年度も、一部の学生だけが活躍するのではなく、同様の方法を踏襲しながら、刻々と変化する内外の教育情勢を踏まえて、授業内容を更新していきたい。</p>
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q	9	1. そう思う	0
Q	9	2. やや思う	0
Q	9	3. あまり思わない	1
Q	9	4. そう思わない	1
Q	10	改善点があれば 具体的	
Q	10	具体的事例	

## 【2年生授業科目】

		年度	2022	2022
		期	通年	後期
Q	1	授業者	千森・森崎・森下・小田・江口	山本紀代
Q	1	授業名	地域連携フィールドゼミナール	算数
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	0	1
Q	2	2. 演習	1	1
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	0	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	1
Q	3	3. レポート	1	0
Q	3	4. その他 具体的に：	各自のレポートの他、ゼミ形式で研究発表を行いその評価を行っている。	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	1	1
Q	4	2. やや思う	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	1	0
Q	6	2. やや思う	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	1
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	学生自ら地域の課題に取り組み対策を提案し実行している。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	1	1
Q	9	2. やや思う	0	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的		
Q	10	具体的事例	「授業への取り組み」「内容・方法」「成果」共に平均を大きく上回っている。改善工夫の具体事例にも挙げているが、其々のゼミごとに、学生主体の取り組みと地域との関わりがねらい通りに進められているものとする。今後も学生の意志意欲を尊重し地域との関わりを深めていきたい。	



		年度	2022	2022	2022
		期	通年	後期	後期
Q	1	授業者	溝口希久生・八代健志	小林康宏	秋吉博之
Q	1	授業名	器楽	初等教科教育法(国語)	初等教科教育法(生活)
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	1	1
Q	2	2. 演習	0	0	0
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	1	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	1	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q	3	3. レポート	0	1	0
Q	3	4. その他 具体的に：			
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	1	1
Q	4	2. やや思う	1	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	1	1
Q	6	2. やや思う	0	0	0
Q	6	3. あまり思わない	1	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	①指導内容の連続性を重視する。②学生の既知曲を教材とする。③歌う、弾く、書くの観点から総合的に学ぶ。の3点を視点としたオリジナルのテキストを作成し、鍵盤楽器、2人態勢で授業を行った。		全体への問いかけ、机間巡視等により学生の状況を把握しながら、授業内容を検討しながら進めた。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	1	0	1
Q	9	3. あまり思わない	0	1	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的			
Q	10	具体的事例	授業への取り組みが積極的ではない学生への対応はより慎重に行う。		概ね達成できた。この結果を他の授業科目にも活かしていきたい。

		年度	2022	2022
		期	後期	通年
Q	1	授業者	溝口希久生	小田真弓
Q	1	授業名	初等教科教育法・音楽	幼稚園実習 I
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	1	0
Q	2	2. 演習	1	0
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	1
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	1	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	0
Q	3	3. レポート	1	0
Q	3	4. その他 具体的に：	グループごとの模擬授業も評価にいった。	外部評価
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	1	0
Q	4	2. やや思う	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	0	0
Q	6	2. やや思う	0	1
Q	6	3. あまり思わない	1	0
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	模擬授業前に、できる限り班や学生の習熟度に応じた事前の指導を行った。	実習直前に授業を実施した。クラスの枠を外し、実習園ごとに実施し、実習初日に行う自己紹介や絵本の読み聞かせ、手遊びの交流を行った。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的		
Q	10	具体的事例	理論と結びつけた模擬授業ができない学生が毎年一定数いる。そのような学生への授業中や授業後の指導を工夫する。	実習までに十分な準備を行っているか、実習に対する不安等がないか、必要に応じて個別面談を行う。

		年度	2022
		期	通年
Q	1	授業者	小田真弓
Q	1	授業名	幼稚園実習指導Ⅰ
Q	2	授業の形態	
Q	2	1. 講義	0
Q	2	2. 演習	1
Q	2	3. 実験	0
Q	2	4. 実習・実技	0
Q	3	成績評価の方法	
Q	3	1. 期末試験	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0
Q	3	3. レポート	1
Q	3	4. その他 具体的に：	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q	4	1. そう思う	1
Q	4	2. やや思う	0
Q	4	3. あまり思わない	0
Q	4	4. そう思わない	0
Q	4	5. 該当しない	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫	
Q	5	1. そう思う	1
Q	5	2. やや思う	0
Q	5	3. あまり思わない	0
Q	5	4. そう思わない	0
Q	6	シラバス等の工夫	
Q	6	1. そう思う	0
Q	6	2. やや思う	0
Q	6	3. あまり思わない	1
Q	6	4. そう思わない	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q	7	1. そう思う	1
Q	7	2. やや思う	0
Q	7	3. あまり思わない	0
Q	7	4. そう思わない	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例	
Q	8	具体的事例	<p>実習日誌の書写を行うことからはじめ、「子どもの活動」、「保育者の援助・配慮」、映像を見て日誌作成と4段階に日誌を作成した。わらべ歌を実演したり、ゲームの遊び方を実演したり、歳児に応じた集団遊びの資料を配布して紹介した。</p> <p>実習園ごとのグループワーク(視覚教材を準備した上で部分保育の交流や振り返り等)を取り入れた。</p>
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q	9	1. そう思う	0
Q	9	2. やや思う	0
Q	9	3. あまり思わない	1
Q	9	4. そう思わない	0
Q	10	改善点があれば 具体的	
Q	10	具体的事例	<p>実習に向けて、授業以外に各自で取り組まなければならないこと(ピアノの練習、手遊び・絵本などの教材研究)がたくさんあるため、いつまでにどれだけの教材研究を行っておかなければならないかということを具体的に知らせた。今後も事前準備に力を入れていきたい。提出物について、実習指導のシラバスと授業時配布のレジメに期限を記入しているが、理解できていない学生がいるため、ポータルメッセージ機能を併用していく。</p>

## 【3年生授業科目】

		年度	2022	2022
		期	通年	通年
Q	1	授業者	千森督子・森崎陽子	森崎陽子・辻伸幸
Q	1	授業名	インターンシップ	キャリアガイダンス I
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	0	1
Q	2	2. 演習	0	0
Q	2	3. 実験	1	0
Q	2	4. 実習・実技	1	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	0
Q	3	3. レポート	1	1
Q	3	4. その他 具体的に：	外部評価を含んでいる。	特にありません。
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	0	0
Q	4	2. やや思う	0	1
Q	4	3. あまり思わない	1	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	0	0
Q	5	2. やや思う	0	1
Q	5	3. あまり思わない	1	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	0	0
Q	6	2. やや思う	0	1
Q	6	3. あまり思わない	1	0
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	0	0
Q	7	2. やや思う	0	1
Q	7	3. あまり思わない	1	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	特にありません。	進路を教職以外にも広くとらえられるように授業内容を工夫している。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	1
Q	9	2. やや思う	0	0
Q	9	3. あまり思わない	1	0
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的		
Q	10	具体的事例	特にありません。	「授業への取り組み」「授業の内容・方法」は平均より高い。しかし、「授業の成果」が非常に低い。身に付けたことを実際の採用試験に生かすことができるように授業が終了しても引き続きサポートしていきたい。また、授業評価アンケートの実施日が遅れたため回答率が低くなった為その点も改善点と考える。

		年度	2022	2022	2022
		期	前期	後期	後期
Q	1	授業者	溝口希久生	村上凡子	森下順子
Q	1	授業名	鍵盤楽器の表現技法	特別支援教育・保育Ⅱ	地域と子育て支援
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	0	1
Q	2	2. 演習	0	1	0
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	1	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	1	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q	3	3. レポート	0	0	1
Q	3	4. その他 具体的に：	授業中の演奏の技能		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	0	0
Q	4	2. やや思う	1	1	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	0
Q	5	2. やや思う	0	0	1
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	0	0
Q	6	2. やや思う	0	1	1
Q	6	3. あまり思わない	1	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	0
Q	7	2. やや思う	0	0	1
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	2人の指導者で2グループに分けて、個に応じた指導やグループアンサンブルを取り入れた。	教育実習の巡回指導において、ある学校長から次のようなお話をうかがった。「支援学級在籍児童が、道徳の時間には交流学級で共に学んでいる。その授業で、当該児童が参加しやすく、本時の目あてにそって成果を獲得するような授業展開が望まれる。現職教員も苦慮しているところである。」そこで、この授業では、学部時代の授業で、支援を要する児童がより意欲的に学び、学級の一員として学びの達成感を得られるよう、9月に終了した小学校実習、保育実習でどの子どもも参加できる学びのユニバーサルデザインの理念の具現化を志向した学習指導案を、学年、年齢チームで作成し、模擬授業、模擬保育を実践する時間を設けた。模擬保育・模擬授業の振り返りから、この取り組みの意義を実感し、将来への課題もより明確に意識化することができたことが読み取れた。	グループワークを可能な限り取り入れて、主体的な授業を試みた。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	0	0	1
Q	9	3. あまり思わない	1	1	0
Q	9	4. そう思わない	0	1	0
Q	10	改善点があれば 具体的に			
Q	10	具体的事例		次年度は担当しません。	授業への取り組みに課題があったため、グループ内で誰もが意見を発言できる工夫と、課題を意識的に出すことを試みたい。

		年度	2022
		期	通年
Q	1	授業者	小田真弓
Q	1	授業名	幼稚園実習Ⅱ
Q	2	授業の形態	
Q	2	1. 講義	0
Q	2	2. 演習	0
Q	2	3. 実験	0
Q	2	4. 実習・実技	1
Q	3	成績評価の方法	
Q	3	1. 期末試験	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0
Q	3	3. レポート	0
Q	3	4. その他 具体的に：	外部評価
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q	4	1. そう思う	0
Q	4	2. やや思う	0
Q	4	3. あまり思わない	0
Q	4	4. そう思わない	0
Q	4	5. 該当しない	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫	
Q	5	1. そう思う	1
Q	5	2. やや思う	0
Q	5	3. あまり思わない	0
Q	5	4. そう思わない	0
Q	6	シラバス等の工夫	
Q	6	1. そう思う	0
Q	6	2. やや思う	1
Q	6	3. あまり思わない	0
Q	6	4. そう思わない	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q	7	1. そう思う	1
Q	7	2. やや思う	0
Q	7	3. あまり思わない	0
Q	7	4. そう思わない	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例	
Q	8	具体的事例	実習指導独自のシラバスを作成し、持ち物や提出物、提出日時を記載したものを初回に配布した。6月実習、9月実習1か月後の実習となるため、計画的に準備ができるように4月末に準備しておく課題を知らせ、各自のペースで準備できるようにした。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q	9	1. そう思う	0
Q	9	2. やや思う	1
Q	9	3. あまり思わない	0
Q	9	4. そう思わない	0
Q	10	改善点があれば 具体的	
Q	10	具体的事例	実習のための提出物や、提出課題を計画的に行えるように一覧表を作成し提示しているが、学生が理解していないため、授業資料にも再度記入している。しかし、理解していない学生がいるため、ポータルメッセージ機能でも知らせている。今後も続けていく必要がある。

		年度	2022
		期	通年
Q	1	授業者	小田真弓
Q	1	授業名	幼稚園実習指導Ⅱ
Q	2	授業の形態	
Q	2	1. 講義	0
Q	2	2. 演習	1
Q	2	3. 実験	0
Q	2	4. 実習・実技	0
Q	3	成績評価の方法	
Q	3	1. 期末試験	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0
Q	3	3. レポート	1
Q	3	4. その他 具体的に：	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q	4	1. そう思う	0
Q	4	2. やや思う	0
Q	4	3. あまり思わない	0
Q	4	4. そう思わない	0
Q	4	5. 該当しない	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫	
Q	5	1. そう思う	1
Q	5	2. やや思う	0
Q	5	3. あまり思わない	0
Q	5	4. そう思わない	0
Q	6	シラバス等の工夫	
Q	6	1. そう思う	0
Q	6	2. やや思う	1
Q	6	3. あまり思わない	0
Q	6	4. そう思わない	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q	7	1. そう思う	1
Q	7	2. やや思う	0
Q	7	3. あまり思わない	0
Q	7	4. そう思わない	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例	
Q	8	具体的事例	責任実習指導案の書写を行った後、「朝の会」、「昼食」、「帰りの会」、部分実習指導案3種(製作・音楽リズム・集団遊び)の指導案の作成した。その後グループで模擬保育を行い、保育の改善案を具体的に知らせ、実習に臨めるようにした。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q	9	1. そう思う	0
Q	9	2. やや思う	1
Q	9	3. あまり思わない	0
Q	9	4. そう思わない	0
Q	10	改善点があれば 具体的	
Q	10	具体的事例	実習に向けて、授業以外に各自で取り組まなければならないこと(ピアノの練習、手遊び・絵本などの教材研究、指導案作成)がたくさんあるため、いつまでにどれだけの教材研究を行っておかなければならないかということ具体的に知らせ、実習までに余裕をもって準備できるように独自のシラバスで知らせている。小幼コースは、施設実習後は小学校実習を重点に教材研究を行っているため、次年度は、4月中に指導案作成についての理解を深め、施設実習終了後1か月間に事前準備(指導案の作成)を終えるようする。

		年度	2022	2022	2022
		期	通年	通年	通年
Q	1	授業者	辻伸幸・山本紀代	辻伸幸・山本紀代	小田真弓
Q	1	授業名	小学校実習	小学校実習指導	保育実習Ⅰ(保育所)
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	1	0
Q	2	2. 演習	0	1	0
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	1	1	1
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	0	0
Q	3	2. 平常点(小テスト・小レポート等)	0	1	0
Q	3	3. レポート	1	1	0
Q	3	4. その他 具体的に:	実習先の評価を加味		外部評価
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	0	0
Q	4	2. やや思う	1	1	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	0	0
Q	6	2. やや思う	0	0	1
Q	6	3. あまり思わない	1	1	1
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例			コロナ禍と発達段階から3歳未満児の保育現場を経験させていただきにくいこともあり、実態と保育方法について、DVD視聴や写真、イラストを用いて、実際の保育の様子を知らせた。そうすることにより実習に対する不安を軽減する工夫を行った。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0	1
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的			
Q	10	具体的事例			



		年度	2022	2022
		期	通年	後期
Q 1		授業者	小田真弓	小田真弓
Q 1		授業名	保育実習指導Ⅰ(保育所)	保育実習Ⅱ
Q 2		授業の形態		
Q 2	1.	講義	0	0
Q 2	2.	演習	1	0
Q 2	3.	実験	0	0
Q 2	4.	実習・実技	0	1
Q 3		成績評価の方法		
Q 3	1.	期末試験	0	0
Q 3	2.	平常点(小テスト・小レポート等)	0	0
Q 3	3.	レポート	1	0
Q 3	4.	その他 具体的に:		外部評価
Q 4		前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4	1.	そう思う	0	0
Q 4	2.	やや思う	0	0
Q 4	3.	あまり思わない	0	0
Q 4	4.	そう思わない	0	0
Q 4	5.	該当しない	1	1
Q 5		意欲的に参加できるような工夫		
Q 5	1.	そう思う	1	1
Q 5	2.	やや思う	0	0
Q 5	3.	あまり思わない	0	0
Q 5	4.	そう思わない	0	0
Q 6		シラバス等の工夫		
Q 6	1.	そう思う	0	0
Q 6	2.	やや思う	0	1
Q 6	3.	あまり思わない	1	1
Q 6	4.	そう思わない	0	0
Q 7		授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7	1.	そう思う	1	1
Q 7	2.	やや思う	0	0
Q 7	3.	あまり思わない	0	0
Q 7	4.	そう思わない	0	0
Q 8		改善や工夫の具体的事例		
Q 8		具体的事例	3歳未満児の実態と保育方法について、写真やイラストを用いた資料を作成し、授業を行った。DVD視聴の際は、メモを取りながら日誌作成を行った。	保育実習Ⅰ(保育所)と幼稚園実習Ⅱの部分実習、責任実習を振り返り、最後の責任実習に向けて、指導案の再考を十分にを行った上で実習に臨ませた。
Q 9		授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9	1.	そう思う	0	0
Q 9	2.	やや思う	1	0
Q 9	3.	あまり思わない	0	1
Q 9	4.	そう思わない	0	0
Q 10		改善点があれば 具体的に		
Q 10		具体的事例	幼稚園実習指導Ⅱと保育実習指導Ⅰ(保育所)が同時に進んでいくため、独自のシラバスを作り、予習・復習が十分に行えるようにした。	

		年度	2022
		期	後期
Q 1		授業者	小田真弓
Q 1		授業名	保育実習指導Ⅱ
Q 2		授業の形態	
Q 2	1.	講義	0
Q 2	2.	演習	1
Q 2	3.	実験	0
Q 2	4.	実習・実技	0
Q 3		成績評価の方法	
Q 3	1.	期末試験	0
Q 3	2.	平常点（小テスト・小レポート等）	0
Q 3	3.	レポート	1
Q 3	4.	その他 具体的に：	
Q 4		前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q 4	1.	そう思う	0
Q 4	2.	やや思う	0
Q 4	3.	あまり思わない	0
Q 4	4.	そう思わない	0
Q 4	5.	該当しない	1
Q 5		意欲的に参加できるような工夫	
Q 5	1.	そう思う	1
Q 5	2.	やや思う	0
Q 5	3.	あまり思わない	0
Q 5	4.	そう思わない	0
Q 6		シラバス等の工夫	
Q 6	1.	そう思う	0
Q 6	2.	やや思う	0
Q 6	3.	あまり思わない	1
Q 6	4.	そう思わない	0
Q 7		授業内容の理解を深めるような工夫	
Q 7	1.	そう思う	1
Q 7	2.	やや思う	0
Q 7	3.	あまり思わない	0
Q 7	4.	そう思わない	0
Q 8		改善や工夫の具体的事例	
Q 8	具体的事例		<p>事前指導では、3年生幼保コースと4年生3免取得希望者の実習の時期が異なるため、同時に行ったり、分けて行ったりと、どちらの学生にとっても十分な指導ができるように時間配分を行い授業をすすめた。3年生幼保コースは、幼稚園実習Ⅱの後で、最後の実習となるため、今まで行ってきた責任実習を振り返り、より良い指導案となるように再考して実習に臨ませた。4年生の事前指導は、実習と実習のためのため、保育所実習10日間の振り返りを行った後友達と意見を出し合ったり、意見交換しながら指導案を作成して実習に臨ませた。事後指導では、自己の実習を振り返ると共に、3年生幼保コースと3免希望者の4年生が一堂に振り返りを行うことで新しい知識や技術を身につけられるようにした。</p>
Q 9		授業アンケート結果を受けての改善	
Q 9	1.	そう思う	0
Q 9	2.	やや思う	0
Q 9	3.	あまり思わない	1
Q 9	4.	そう思わない	0
Q 10		改善点があれば 具体的に	
Q 10	具体的事例		

	年度	2022	2022
	期	通年	通年
Q 1	授業者	戸潤・森下・八代・小田	秋吉・小林・辻・山本
Q 1	授業名	保育内容実践研究	教科実践研究
Q 2	授業の形態		
Q 2	1. 講義	0	0
Q 2	2. 演習	1	1
Q 2	3. 実験	0	0
Q 2	4. 実習・実技	0	0
Q 3	成績評価の方法		
Q 3	1. 期末試験	0	0
Q 3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1
Q 3	3. レポート	1	0
Q 3	4. その他 具体的に：		模擬授業の取り組み
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4	1. そう思う	0	1
Q 4	2. やや思う	1	0
Q 4	3. あまり思わない	0	0
Q 4	4. そう思わない	0	0
Q 4	5. 該当しない	0	0
Q 5	意欲的に参加できるような工夫		
Q 5	1. そう思う	0	1
Q 5	2. やや思う	1	0
Q 5	3. あまり思わない	0	0
Q 5	4. そう思わない	0	0
Q 6	シラバス等の工夫		
Q 6	1. そう思う	0	1
Q 6	2. やや思う	1	0
Q 6	3. あまり思わない	0	0
Q 6	4. そう思わない	0	0
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7	1. そう思う	1	1
Q 7	2. やや思う	0	0
Q 7	3. あまり思わない	0	0
Q 7	4. そう思わない	0	0
Q 8	改善や工夫の具体的事例		
Q 8	具体的事例		全員が模擬授業を実施しているが、その時間の確保した。
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9	1. そう思う	0	0
Q 9	2. やや思う	0	1
Q 9	3. あまり思わない	0	0
Q 9	4. そう思わない	0	0
Q 10	改善点があれば 具体的		
Q 10	具体的事例	本町こども園への見学を計画していたが、コロナ禍のため実現することができなかった。次年度からは、保育現場の見学を通して実感を学び深めさせたい。	概ね達成できたが、さらに個別指導を進める。

		年度	2022	2022	2022
		期	通年	通年	通年
Q	1	授業者	村上凡子	秋吉博之	小林康宏
Q	1	授業名	専門ゼミナール I	専門ゼミナール I	専門ゼミナール I
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	0	0
Q	2	2. 演習	1	1	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	1	1
Q	3	3. レポート	1	0	1
Q	3	4. その他 具体的に：	口頭発表	論文講読への取り組み	プレゼン 態度
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	1	1
Q	4	2. やや思う	1	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	1	1
Q	6	2. やや思う	1	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	ある学生の研究テーマに沿う外部講師によるセミナーを開催し、他のゼミ生も参加した。講師は現職の小学校の校長先生であり、算数・数学教育の専門家である。小学校教員を目標としている学生にとっては、算数教育に加えて、自分の教師像を明確化する機会になったようだ。	先行研究がレビューできるように、個別に細かな指導に心がけた。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	0	1	0
Q	9	3. あまり思わない	1	0	1
Q	9	4. そう思わない	1	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的に			
Q	10	具体的事例	相互協力が次年度のメンバーも一層促進されるよう、「我関せず」ではなく意見を言い合えるような雰囲気づくりに努めたい。2023年度は3年生と4年生のメンバー同士の交流の機会を増やしていきたい。	見通しをもって取り組めるように細やかな指導をする。	

		年度	2022	2022	2022
		期	通年	通年	通年
Q	1	授業者	溝口希久生	八代健志	山本紀代
Q	1	授業名	専門ゼミナール I	専門ゼミナール I	専門ゼミナール I
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	1	0	1
Q	2	2. 演習	1	1	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	1	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q	3	3. レポート	1	1	1
Q	3	4. その他 具体的に：	授業中の卒論に関するプレゼンテーションの能力も評価する。		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	0	0
Q	4	2. やや思う	1	0	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	1	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	0	0	1
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	1	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	1	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	0	0
Q	6	2. やや思う	0	0	0
Q	6	3. あまり思わない	1	0	1
Q	6	4. そう思わない	0	1	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	0	1	1
Q	7	2. やや思う	1	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例			
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	1	0	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	1	0
Q	10	改善点があれば 具体的			
Q	10	具体的事例	10人のゼミ生であるため、指導に行き届かない面があった。次年度は、2コマに分けて指導を行う。		

## 【4年生授業科目】

		年度	2022	2022
		期	通年	後期
Q	1	授業者	森崎陽子・辻伸幸	小林・山本・桑原
Q	1	授業名	キャリアガイダンスⅡ	教職実践演習
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	1	0
Q	2	2. 演習	0	1
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	1
Q	3	3. レポート	1	1
Q	3	4. その他 具体的に：		模擬授業 態度
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	0	0
Q	4	2. やや思う	1	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	0	1
Q	5	2. やや思う	1	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	1	1
Q	6	2. やや思う	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	特にありません。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的		
Q	10	具体的事例	2022年度は、7名の受講者であった。7名それぞれの進路に従った指導ができたと思っている。しかし、受講生が多くなった場合の対応を考え準備しておく必要があると考える。	ガイダンスでの具体的な説明

		年度	2022
		期	後期
Q	1	授業者	森下・八代・小田
Q	1	授業名	保育・教職実践演習(幼)
Q	2	授業の形態	
Q	2	1. 講義	0
Q	2	2. 演習	1
Q	2	3. 実験	0
Q	2	4. 実習・実技	0
Q	3	成績評価の方法	
Q	3	1. 期末試験	0
Q	3	2. 平常点(小テスト・小レポート等)	1
Q	3	3. レポート	1
Q	3	4. その他 具体的に:	模擬保育の準備・実践・振り返り・子ども役等の役割演技などの授業の取り組み
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q	4	1. そう思う	0
Q	4	2. やや思う	1
Q	4	3. あまり思わない	0
Q	4	4. そう思わない	0
Q	4	5. 該当しない	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫	
Q	5	1. そう思う	1
Q	5	2. やや思う	0
Q	5	3. あまり思わない	0
Q	5	4. そう思わない	0
Q	6	シラバス等の工夫	
Q	6	1. そう思う	0
Q	6	2. やや思う	1
Q	6	3. あまり思わない	0
Q	6	4. そう思わない	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q	7	1. そう思う	1
Q	7	2. やや思う	0
Q	7	3. あまり思わない	0
Q	7	4. そう思わない	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例	
Q	8	具体的事例	4年間の実践を確認する授業であることから、理論に結び付く実践力を心がけた。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q	9	1. そう思う	0
Q	9	2. やや思う	0
Q	9	3. あまり思わない	1
Q	9	4. そう思わない	0
Q	10	改善点があれば 具体的	
Q	10	具体的事例	

		年度	2022
		期	通年
Q	1	授業者	村上凡子
Q	1	授業名	専門ゼミナールⅡ
Q	2	授業の形態	
Q	2	1. 講義	0
Q	2	2. 演習	1
Q	2	3. 実験	0
Q	2	4. 実習・実技	0
Q	3	成績評価の方法	
Q	3	1. 期末試験	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0
Q	3	3. レポート	1
Q	3	4. その他 具体的に：	口頭発表
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q	4	1. そう思う	0
Q	4	2. やや思う	0
Q	4	3. あまり思わない	0
Q	4	4. そう思わない	0
Q	4	5. 該当しない	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫	
Q	5	1. そう思う	1
Q	5	2. やや思う	0
Q	5	3. あまり思わない	0
Q	5	4. そう思わない	0
Q	6	シラバス等の工夫	
Q	6	1. そう思う	0
Q	6	2. やや思う	1
Q	6	3. あまり思わない	0
Q	6	4. そう思わない	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q	7	1. そう思う	1
Q	7	2. やや思う	0
Q	7	3. あまり思わない	0
Q	7	4. そう思わない	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例	
Q	8	具体的事例	卒業研究と合わせて、ゼミのメンバーが相互に研鑽し合えるよう、仲介役となり議論の場を設定した。次年度も継続していきたい。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q	9	1. そう思う	0
Q	9	2. やや思う	0
Q	9	3. あまり思わない	1
Q	9	4. そう思わない	1
Q	10	改善点があれば 具体的	
Q	10	具体的事例	



		年度	2022
		期	通年
Q	1	授業者	秋吉博之
Q	1	授業名	専門ゼミナールⅡ
Q	2	授業の形態	
Q	2	1. 講義	0
Q	2	2. 演習	1
Q	2	3. 実験	0
Q	2	4. 実習・実技	0
Q	3	成績評価の方法	
Q	3	1. 期末試験	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1
Q	3	3. レポート	0
Q	3	4. その他 具体的に：	卒論発表、卒業論文への取り組み
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q	4	1. そう思う	1
Q	4	2. やや思う	0
Q	4	3. あまり思わない	0
Q	4	4. そう思わない	0
Q	4	5. 該当しない	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫	
Q	5	1. そう思う	1
Q	5	2. やや思う	0
Q	5	3. あまり思わない	0
Q	5	4. そう思わない	0
Q	6	シラバス等の工夫	
Q	6	1. そう思う	1
Q	6	2. やや思う	0
Q	6	3. あまり思わない	0
Q	6	4. そう思わない	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q	7	1. そう思う	1
Q	7	2. やや思う	0
Q	7	3. あまり思わない	0
Q	7	4. そう思わない	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例	
Q	8	具体的事例	論理的な文章表現になるように、個別に細かな指導に心がけた。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q	9	1. そう思う	0
Q	9	2. やや思う	1
Q	9	3. あまり思わない	0
Q	9	4. そう思わない	0
Q	10	改善点があれば 具体的	
Q	10	具体的事例	卒論発表会で時間を守るように指導をする。

		年度	2022	2022
		期	通年	通年
Q	1	授業者	小林康宏	溝口希久生
Q	1	授業名	専門ゼミナールⅡ	専門ゼミナールⅡ
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	0	1
Q	2	2. 演習	1	1
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	1
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1
Q	3	3. レポート	1	1
Q	3	4. その他 具体的に：	卒業論文 発表	授業外の自分のテーマの探究を重視した。
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	1	0
Q	4	2. やや思う	0	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	1	0
Q	6	2. やや思う	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	1
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	1
Q	7	2. やや思う	0	1
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例		個に応じた指導を心がけた。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	0	1
Q	9	3. あまり思わない	1	0
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的		
Q	10	具体的事例		次年度10人のゼミ生であるため、2コマに分けて指導を行う。

		年度	2022	2022
		期	通年	通年
Q	1	授業者	八代健志	山本紀代
Q	1	授業名	専門ゼミナールⅡ	専門ゼミナールⅡ
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	0	1
Q	2	2. 演習	1	1
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1
Q	3	3. レポート	1	1
Q	3	4. その他 具体的に：		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	0	0
Q	4	2. やや思う	0	0
Q	4	3. あまり思わない	1	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	0	1
Q	5	2. やや思う	0	0
Q	5	3. あまり思わない	1	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	0	0
Q	6	2. やや思う	0	0
Q	6	3. あまり思わない	1	1
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	0	1
Q	7	2. やや思う	0	0
Q	7	3. あまり思わない	1	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例		
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	0	1
Q	9	3. あまり思わない	1	0
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的		
Q	10	具体的事例		

		年度	2022	2022
		期	通年	通年
Q	1	授業者	村上凡子	秋吉博之
Q	1	授業名	卒業研究	卒業研究
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	0	0
Q	2	2. 演習	1	1
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	1
Q	3	3. レポート	1	0
Q	3	4. その他 具体的に：	口頭発表	卒論発表 卒業論文への取り組み
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	0	1
Q	4	2. やや思う	1	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	0	1
Q	6	2. やや思う	1	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	ある学生の研究テーマに沿う外部講師によるセミナーを開催し、他のゼミ生も参加した。講師は現職の小学校の校長先生であり、算数・数学教育の専門家である。小学校教員を目標としている学生にとっては、算数教育に加えて、自分の教師像を明確化する機会になったようだ。	論理的な文章表現になるように、個別に細かな指導に心がけた。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	0	1
Q	9	3. あまり思わない	1	0
Q	9	4. そう思わない	1	0
Q	10	改善点があれば 具体的		
Q	10	具体的事例	相互協力が次年度のメンバーも一層促進されるよう、「我関せず」ではなく意見を言い合えるような雰囲気づくりに努めたい。2023年度は3年生と4年生のメンバー同士の交流の機会を増やしていきたい。	卒論発表会で時間を守るように指導をする。

		年度	2022	2022	2022
		期	通年	通年	通年
Q	1	授業者	小林 康宏	溝口 希久生	八代健志
Q	1	授業名	卒業研究	卒業研究	卒業研究
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	0	0
Q	2	2. 演習	1	1	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	0
Q	3	3. レポート	1	1	0
Q	3	4. その他 具体的に：	卒業論文 プレゼン 態度	主に卒論のために課 題探究に関して評価 した。	発表会での態度。内 容。取り組む姿勢
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	1	0	0
Q	4	2. やや思う	0	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	1
Q	4	5. 該当しない	0	1	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	0
Q	5	2. やや思う	0	0	1
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	1	0	0
Q	6	2. やや思う	0	0	1
Q	6	3. あまり思わない	0	1	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	0
Q	7	2. やや思う	0	0	1
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例		小人数であったため、 出来る限り学生個々 の能力や状況に応じた 指導を心がけた。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1	0
Q	9	3. あまり思わない	1	0	1
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば 具体的			
Q	10	具体的事例			

		年度	2022	集計
		期	通年	
Q 1		授業者	山本紀代	
Q 1		授業名	卒業研究	
Q 2		授業の形態		
Q 2	1.	講義	1	16
Q 2	2.	演習	1	38
Q 2	3.	実験	0	1
Q 2	4.	実習・実技	1	15
Q 3		成績評価の方法		
Q 3	1.	期末試験	0	8
Q 3	2.	平常点（小テスト・小レポート等）	1	36
Q 3	3.	レポート	1	37
Q 3	4.	その他 具体的に：	卒業論文	
Q 4		前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4	1.	そう思う	0	17
Q 4	2.	やや思う	0	21
Q 4	3.	あまり思わない	0	5
Q 4	4.	そう思わない	0	1
Q 4	5.	該当しない	1	13
Q 5		意欲的に参加できるような工夫		
Q 5	1.	そう思う	1	41
Q 5	2.	やや思う	0	9
Q 5	3.	あまり思わない	0	6
Q 5	4.	そう思わない	0	1
Q 6		シラバス等の工夫		
Q 6	1.	そう思う	0	16
Q 6	2.	やや思う	0	19
Q 6	3.	あまり思わない	1	20
Q 6	4.	そう思わない	0	1
Q 7		授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7	1.	そう思う	1	45
Q 7	2.	やや思う	0	8
Q 7	3.	あまり思わない	0	5
Q 7	4.	そう思わない	0	0
Q 8		改善や工夫の具体的事例		
Q 8		具体的事例		
Q 9		授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9	1.	そう思う	0	7
Q 9	2.	やや思う	1	28
Q 9	3.	あまり思わない	0	19
Q 9	4.	そう思わない	0	8
Q 10		改善点があれば 具体的		
Q 10		具体的事例		

## 2. 令和 4 年度の委員会等の活動報告

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

入試委員会

今年度の活動目標・計画(改善を含む)

コロナ関連も含めて文部科学省等のガイドラインに沿って、募集要項にある入学試験を適切に実施する。

【目標・計画に対する活動内容】※具体例等

- ① 入試委員会の実施
- ② 入学試験の実施
- ③ オープンキャンパス・入学相談会の実施
- ④ 教員・教育関係者への大学説明会の実施
- ⑤ 保育系志願者を生み出すためのリーフレットの作成
- ⑥ 出張講義のリーフレットの作成
- ⑦ キャリア関係のリーフレット作成

【根拠資料】 ※配布・公開したチラシ・議事録等

【自己評価】

- ① 入試委員会の実施 ほぼ毎月実施(議事録参照)
- ② 入学試験の実施 計画通り実施中
- ③ オープンキャンパス・入学相談会の実施 計画通り実施中
- ④ 教員・教育関係者への大学説明会の実施 計画通り実施済み
- ⑤ 保育系志願者を生み出すためのリーフレットの作成 作成配布済み
- ⑥ 出張講義のリーフレットの作成 作成配布済み
- ⑦ キャリア関係のリーフレット作成 作成配布済み

※コロナ禍の中ではあったが、問題なく入学試験及び入試関係業務を実施することができた。

⑧令和6年度、7年度入試の改善を行った。2023年2月13日教授会議事録

※評価視点を含めたうえでの評価を行っても良い。



## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

次年度の目標・計画(改善を含む)

入学試験を適切に実施するとともに、和歌山信愛大学の認知度をさらに上げるための行事を行う。

令和 5 年 3 月 13 日

責任者職位・氏名 アドミッション・オフィス長

原 義則

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

学科・委員会・センター等

教務委員会

教務委員会では、教育課程の編成、試験、入学・休学・退学・転学、学籍の移動等の教務に関する事項について審議し、実施している。

今年度の活動目標・計画(改善を含む)

- ・大学完成年度にあたり、当初の計画に沿って教育課程の編成を行う。
- ・試験、入学・休学・退学・転学、学籍の移動に関して、学内での体制を整えて実施する。

【目標・計画に対する活動内容】

- ・別紙のように、年間計画にしたがって審議し、実施してきた。

【根拠資料】

- ・別紙「2022 年度教務委員会報告」のとおり。なお、教務委員会議事録については大学サーバーに保管し、教職員間で共有している。

【自己評価】

- ・大学設置 4 年目までの教育課程の編成については、これまで適切に実施した。
- ・試験、入学・休学・退学・転学、学籍の移動に関して、学内での体制を整えて実施してきた。

次年度の目標・計画(改善を含む)

- ・大学設置 5 年目以降の学内での改革を見据えて、教育課程の編成について準備を整えていく。

令和 5 年 3 月 13 日

責任者職位・氏名

教務委員長 秋吉博之

## 2022年度 教務委員会 報告

4月 25日 月	<b>年間議題の確認</b> 就職活動時の定期試験について（4年次）、成績評価について
5月 23日 月	<b>授業評価アンケートについて(実施手順の確認・内容の検討)</b>
6月 20日 月	<b>前期定期試験について(様式・要領の確認)</b> <b>試験後について(出欠入力・成績報告・ガイダンス等の日程確認)</b>
7月 25日 月	
9月 26日 月	<b>前期定期試験の振り返り</b>
10月 24日 月	<b>シラバス作成について</b>
11月 21日 月	<b>次年度教務年間計画（案）について</b>
12月 19日 月	<b>後期定期試験・後期末ガイダンスについて</b>
1月 30日 月	<b>3月末のガイダンスについて</b> 実習の成績評価方法の考え方
2月 20日 月	<b>今年度の評価（次年度に向けて）・報告書</b>
3月 20日 月	

※太字：当初計画事項、細字：追加事項

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

### 学科・委員会・センター等

宗教委員会

大山 村上 江口 福永 (奥田) 星野

### 今年度の活動目標・計画(改善を含む)

1. 1 年生クリスマスの集い 体育館 12 月 10 日
2. 2 年生コースまっとう祈願ミサ 体育館 2 月 7 日
3. 4 年生卒業感謝ミサ カトリック紀北教会屋形町聖堂 2 月 20 日
4. 大学聖堂ミサ 毎月1～2回実施

### 【目標・計画に対する活動内容】※具体例等

今年度活動計画を十全に実施することができた。

### 【根拠資料】

※配布・公開したチラシ・議事録等

クリスマスの集い:プログラム、スタッフメンバー表、座席表

2 年生コースまっとう祈願ミサ:ミサ式次第、ミサ朗読箇所プログラム、座席表

4 年生卒業感謝ミサ:ミサ式次第、ミサ朗読箇所プログラム、共同祈願、座席表

2022年度大学聖堂ミサ案内

委員会議事録:6 月 20 日、10 月 31 日、12 月 19 日、2 月 27 日

### 【自己評価】

昨年度までは新型コロナの影響でオンラインでしか実施できなかったものもあったが本年度はすべて対面で行うことができた。

1 年生のクリスマスの集いは学生たちの自発的ボランティアに運営された。椅子並べなど会場準備・後片付けも全員参加で行った。

2 年生のコースまっとう祈願ミサは休学者を除き全員が出席し、各自準備した共同祈願を一人ひとり献げ今後の学生生活への決意を新たにすることが出来た。椅子並べなど会場準備・後片付けも全員参加で行った。

4 年生の卒業感謝ミサはカトリック紀北教会屋形町聖堂で挙行了。卒業を間近に控え、本格的聖堂での実施ということもあって学生たちも深い気持ちで参加していた。就職活動などと重なった学生を除き全員出席し、本学の建学の精神の上に立って社会人としてのそれぞれの出発を決意する機会となっ

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

た。また学生たち自身のボランティアで交通整理など必要なことを行うことでスムーズに実施できた。参加学生・教職員たちの態度と言葉から 4 年間を通した建学の精神、本学の教育目標ならびに設置計画を十分に実施でき、当初の目標を達成できたことが伝わって来た。

### 次年度の目標・計画(改善を含む)

完成年度を終え、教職員の異動が生じることを踏まえ、順調に行えている宗教および建学の精神に関する宗教委員会の活動を今まで通り続けていくことが大切である。次年度 5 月には感染症対応が変わることが予定されているので取り組み方をさらに充実させたいと考えている。

令和5 年2 月27 日

責任者職位・氏名 宗教委員会委員長

星野正道

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

<b>学科・委員会・センター等</b> 教職課程委員会
<b>今年度の活動目標・計画(改善を含む)</b> 教育職員免許法及び児童福祉法施行規則上の教科目に関する事項について審議し、円滑に実施する。
<b>【目標・計画に対する活動内容】</b> 1. 教職履修カルテの指導・運営(ガイダンス含む)。 2. 教職課程 事後調査対応届及び指定保育士養成施設変更承認申請書の提出 3. 教職課程自己点検評価報告書の作成 4. 免許・資格申請の説明会・手続き <b>【2022 年度卒業(1 期生):82 名】</b> 幼免 1 種:79 名、小免 1 種:63 名、保育士:38 名 5. 変更届の作成  <b>【根拠資料】</b> 議事録 ①4/1 ②8/1
<b>【自己評価】</b> 計画どおり、円滑に実施された。
次年度の目標・計画(改善を含む) 1. 教職履修カルテの指導と運営の継続 2. 免許・資格申請手続きの継続 3. 教職課程における質的向上のための取組 4. 変更届の作成(年度末)

2023(令和 5)年 3 月 3 日

教職課程委員長 森崎 陽子

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

学科・委員会・センター等

実習担当者会議

今年度の活動目標・計画(改善を含む)

1. 担当者は、実習が本学教育の根幹であることを自覚し、指導法の研鑽に取り組む。
2. 各実習の学びを繋ぎ、教育効果を上げるために、各実習終了後の学生指導、評価、会議開催は、設定した期間内の実施を試みる。

【目標・計画に対する活動内容】※具体例等

1. 初めて 4 学年にわたり実習を実施した。
2. 実習担当者会議・各部会を定期的に行い、各実習担当者間の情報共有充実を図った。
3. 各実習における取り組み。
  - ①-1 幼稚園実習・保育実習(保育所)
    - ・個別事前指導及び実習期間中の個別指導や面談を実施。
    - ・外部評価 3.0 未満の学生の個別事後指導を実施。
  - ①-2 保育実習(施設)
    - ・小学校免許取得の為の「介護体験」の代替となる為小学校実習担当者への情報提供。
  - ②小学校実習
    - ・小学校実習生における不適切行為の根絶。
4. 教育実習(幼稚園実習・小学校実習)は欠席の取り扱い評価方法についてそれぞれの評価基準を決定した。

【根拠資料】

※実習担当者会議議事録

【自己評価】

※評価視点を含めたうえでの評価を行っても良い。

1. 初めて 4 学年にわたり実習を実施した。コロナ禍ではあったが、実習先の理解と協力を得、また実習担当者と巡回指導教員が協働することで年度内に全日程を終えることができた。
2. 実習担当者会議を定期的に行い、実習担当者間の情報共有の充実を試みた。しかし、コロナ感染拡大等の影響で実習期間延長等の為、年間を通しての会議の定期的開催はならず十分な連携を図るまでには至らなかった。

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

### 3. 各実習の自己評価

#### ①-1 幼稚園実習・保育実習(保育所)

・幼稚園実習指導・保育実習指導において、計画的に授業を進めたことにより公立施設等で通用する子ども観や保育観を身につけさせることができた。

#### ①-2 保育実習(施設)

・施設実習から小学校実習担当者への学生の課題等の情報提供を行い小学校実習指導へ繋ぐことができた。

・開学から 3 回目の実習となり、福祉施設との信頼関係が構築され共通理解が深まりつつある。次年度も授業改善に努め実習先からの高評価を維持していきたい。

#### ②小学校実習

・コロナ関連で複数の欠席者がいたが、実習校の特別な配慮により実習延長が可能となり、無事全員が実習を終えることができた。

・巡回指導教員の共通理解の下、きめ細やかな大学主体の指導や支援を行うことができた。

・本学の実習の取り組みに対して、全実習校から肯定的な意見を得ることができた。

### 次年度の目標・計画(改善を含む)

1. 一連の実習を通して教育効果を上げるため、次年度も定期的な会議開催を試み、実習担当者以外の巡回指導教員を含めた関係教員間での情報共有の一層の充実を図る。

### 2. 各実習の目標

#### ①-1 幼稚園実習・保育実習(保育所)

・幼稚園実習(保育実習)指導Ⅰは、「実習日誌の内容」、幼稚園実習(保育実習)指導Ⅱは、「保育の計画準備・実践省察」に重点を置いた指導を実施する。

#### ①-2 保育実習(施設)・②小学校実習共通

・実習担当者同士の共通理解を深め連携を充実させる。

#### ②小学校実習

・外部評価の比率について審議していく。

2023(令和 5)年 3 月 3 日

実習担当学会議議長・氏名 森崎 陽子



## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px;">学科・委員会・センター等</div>
学生委員会
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px;">今年度の活動目標・計画(改善を含む)</div>
<p>引き続きコロナウィルス感染症の感染状況を見定めた上、学生の健康と安全な学校生活の保持を最優先に考える。その上で、学生の主体的な活動をできる限り支援し、学生生活の充実を図ることを目標とする。</p> <p>具体的には、コロナ感染症予防措置注意喚起の継続、学生自治会組織の確立と育成、サークル活動組織の立て直しと育成、学園祭等の行事その他の活動の企画運営の学生支援を行っていく。</p>
<p><b>【目標・計画に対する活動内容】※具体例等</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コロナウィルス感染症の予防措置及び学生への注意喚起</li> <li>2. 学生の主体的活動の支援</li> </ol> <p>学生執行部の運営(掲示板の運用、提出ボックスの運用、年末大掃除の実施) 支援 サークル活動の支援</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 行事・その他の活動の企画運営の支援</li> </ol> <p>第 54 回紀州踊り「ぶんだら節」への参加、2022 年度学園祭「第 3 回和信祭」の企画運営の支援</p> <p><b>【根拠資料】</b></p> <p>※学生委員会会議議事録</p>
<p><b>【自己評価】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コロナウィルス感染の感染症予防措置としてポータルへの健康観察は注意喚起を行いながら継続することができた。但し実施状況は時期によって記入率 30～90%と差があり、特に休暇中や実習等が終了すると記入率が下がった。</li> <li>2. 学生自治体執行部の掲示板の運用は定着した。年末大掃除の実施は学年クラスによって多少差があるが実施できた。但し日常の私物の管理、ゴミの分別等が課題である。サークル活動も徐々に安定した活動を行うサークルが増えてきている。新入生歓迎会の開催の希望があり、今年度より実施する。サークル活動への参加者増加と活動の活性化を支援していく。</li> <li>3. コロナウィルス感染の感染状況を考慮し、学生の活動制限、行事等の実施の判断を適宜行い、2 年ぶりに本格的な学園祭「第 3 回和信祭」の実施の支援を行った。1 日目は 4 学年の交流、2 日目は 2 年ぶりに地域に公開し開催した。学内外に好評を得、企画運営に携わった学生達は自主的活動に対する方法を学び自信を</li> </ol>

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

得ることができた。また参加した学生達は狙いであった「4 学年の交流」を叶え、達成感を味わうことができたようである。参加学生は全学生の 8 割であった。今後はできるだけ全学生が主体的に参加する行事に成長させる支援を行っていく。(第 54 回紀州踊り「ぶんだら節」はコロナウィルス感染症感染拡大の為に中止。)

次年度の目標・計画(改善を含む)

1. コロナウィルス感染症予防対策の段階的緩和が予測される中、国の方針を踏まえつつ、学生には健康管理の継続を促す。
2. サークル活動、学園祭、ボランティア活動等の規制を徐々に緩和し、安全安心な学生生活を送る為の策を講じながら、学生の主体的活動の安定と活性化の為の支援を行う。
3. 学期終了時の大掃除を学生に推奨。学生個々の環境の整備や私物の管理、ゴミの分別等、学内外におけるマナーの向上に主体的に取り組む学生の姿勢を作る。
4. 卒業生による同窓会と学生自治会との連携の仕組みを構築する。

2023(令和 5)年 3 月 3 日

学生委員会委員長・氏名 森崎 陽子

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

学科・委員会・センター等 キャリアセンター
今年度の活動目標・計画(改善を含む) 1年次から4年次の学生一人ひとりが主体的に自分の適性や希望に沿った進路を見だし、自主的に就職活動ができるよう教職員と連携しながら各学年に応じた多彩なキャリア形成支援行事・就職支援プログラム、就職相談等の実施をととして支援をする。
【目標・計画に対する活動内容】※具体例等 ①適切・的確な就職情報の収集及び学生や教職員に対するキャリア支援システムや学生ポータル等による就職情報の提供、及び教職員との学生の就職活動状況等の情報交換 ②充実した学生の就職活動支援体制、就職指導サポート体制の構築・・・学生の希望進路別就活について適宜支援してくれる外部就活支援機関との連携関係の構築と強化 ③学生の就活スケジュール感の醸成や就活へのモチベーションを向上させるための系統的・計画的な進路別就職支援プログラムの構築と実践・・・各種特別講座、ガイダンス・セミナー、相談会、校内合同企業説明会の企画・立案・実施、「就職の手引き」の作成と指導 ⑤本学キャリア形成科目との連携及びサポートプログラムの企画・実施・・・キャリアデザイン、キャリアガイダンス、ボランティア実習（スクールボランティア等） ⑥学生のニーズに応じたキャリアセンター室の整備・・・就職活動報告書や求人票等就職関連資料や書籍・冊子・問題集・参考書の整備、就職活動報告書掲示物の工夫 【根拠資料】令和4年度一部各種講座・セミナー・ガイダンス等実施例を添付 ※サイボウズファイル管理内にも「和歌山信愛大学キャリア活動(公開)」にて情報公開している。
【自己評価】今年度の目標・計画を実現するための具体的に計画された活動内容をすべて実践した。特に4年生の就職状況は好調であり、目標も概ね達成された。 小学校(39名中:22名 56%)(39名中:のべ 25 合格 64%)公立保(19名中:13名 68%)(19名中:のべ 16 合格 84%)公務員4名、私立幼保、施設13名、一般企業就職11名
次年度の目標・計画(改善を含む) 引き続き1年次から4年次の学生一人ひとりが主体的に自分の適性や希望に沿った進路を見だし自主的に就職活動ができるよう、なお一層教職員と連携しながら各学年に応じた、かつ、学生のニーズにあった多彩なキャリア形成支援行事・就職支援プログラム、就職相談等を更に精錬し、実践し、就職支援をする。

令和 5 年 3 月 1 日

責任者職位・氏名

キャリアセンター長 味村昌彦

2023年度 キャリア関係各種講座等年間行事予定

◇キャリアセンター主催講座等

2023.3現在

開催時期		年次	参加 対象	正課 授業	各種講座・セミナー等	進路別対象<参考>				
月	日					教員 (小)	私立 幼保	公立 保育	公務員	民間 企業
通年		3			教員採用試験対策講座	○				
		3			公務員就職試験対策講座			○	○	
4月	上旬	2	必須		就職ガイダンス (2年生)	○	○	○	○	○
	上旬	3	必須		就職ガイダンス (3年生)・就職の手引き説明	○	○	○	○	○
	上旬	全学年			教員採用試験対策 第3回全国模試	○				
5月	上旬	全学年			自治体別模試	○				
	上旬	全学年			公務員試験対策 公立保育士模試		○	○		
	中旬	3			就活前期スタートアップ講座					○
	中旬	3	必須	○	自己分析セミナー (キャリアガイダンスⅠ)	○	○	○	○	○
6月	上旬	3	必須	○	就活マナーセミナー (キャリアガイダンスⅠ)	○	○	○	○	○
	上旬	4			教員採用試験 受験事前指導	○				
	中旬	3			公務員試験直前対策 教養試験集中講座		○	○	○	
	中旬	3			公務員試験直前対策 数的処理集中講座		○	○	○	
7月	上旬	3			SPI性格検査・自己分析講座	○	○	○	○	○
	上旬	4			教員採用一次試験 事後指導	○				
	上旬	全学年			公務員試験対策 公立幼稚園教諭・保育士模試		○	○		
	中旬	3			企業就職希望者就職活動指導					○
	下旬	4			教員採用試験二次試験面接指導	○				
8月	上旬	1	必須		キャリア支援システム登録会+就職ガイダンス	○	○	○	○	○
	中旬	3			私立幼稚園・保育園・認定こども園対象就職セミナー		○	○		
	下旬	3			教員採用試験対策夏期集中講座	○				
	下旬	3			公務員就職試験対策夏期集中講座			○	○	
10月	上旬	4			和歌山市教育委員会講師登録説明会・面接	○				
	中旬	3			第1回SPI対策講座	○	○	○	○	○
	中旬	3			第1回進路希望調査	○	○	○	○	○
	下旬	全学年	2年必須		教員採用試験対策 スタート模試	○	○	○	○	○
11月	上旬	3			後期就活スタートアップ講座+業界研究・企業研究					○
	下旬	3	必須	○	学内企業セミナー (キャリアガイダンスⅠ)	○	○	○	○	○
	下旬	3			自己PR作成講座	○	○	○	○	○
	下旬	3			教員採用試験対策ガイダンス	○				
12月	上旬	1	必須	○	公務員就職ガイダンス (教職キャリアデザイン)	○	○	○	○	○
	上旬	3			教員採用試験受験予定者結団式	○				
	上旬	3			和歌山県教員採用試験学内説明会	○				
	上旬	3	必須	○	自己PR・志望動機作成対策講座 (キャリアガイダンスⅠ)	○	○	○	○	○
	上旬	4			就職・受験報告会事前説明会	○	○	○	○	○
	中旬	3			第1回学内企業説明会					○
	中旬	3			大阪市教育委員会教員採用試験学内説明会	○				
	中旬	3			大阪府豊能地区教育委員会教員採用試験学内説明会	○				
	中旬	3			堺市教育委員会教員採用試験学内説明会	○				
1月	下旬	全学年	3年必須		就職・受験報告会	○	○	○	○	○
	中旬	3			第2回学内企業説明会					○
	下旬	3			面接対策講座	○	○	○	○	○
2月	下旬	全学年			教員採用試験対策 第1回全国模試	○				
	上旬	3			ゼミ進路面談	○	○	○	○	○
3月	下旬	全学年			教員採用試験対策 第2回全国模試	○				
	上旬	1・2			公務員就職ガイダンス			○	○	
	上旬	3			教員採用試験対策春期集中講座	○				
	上旬	3			公務員就職試験対策春期集中講座			○	○	
	中旬	1~3			和歌山県内市町村公務員ガイダンス			○	○	
	下旬	3	必須		就職ガイダンス(新4年生)	○	○	○	○	○
後期		2			教養試験対策基礎講座	○	○	○	○	

※太字・・・2023年度和歌山信愛大学行事計画に記載

※開催時期・内容については追加・変更がある場合があります。追加・変更等がある場合は随時お知らせします。

◇正課授業

正課科目	開講期	年次	卒業必・選	科目名
教師塾	通年	1	必修	教職キャリアデザイン
	通年	2・3	選択	インターンシップ (事前・事後指導を含む)
	前期	3	選択	教師への道Ⅰ
	後期	3	選択	教師への道Ⅱ
	通年	3	必修	キャリアガイダンスⅠ
	前期	4	選択	教師への道Ⅲ
	通年	4	選択	キャリアガイダンスⅡ

# 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

<p>学科・委員会・センター等</p> <p>図書委員会</p>
<p>今年度の活動目標・計画(改善を含む)</p> <p>○図書館利用の一層の促進を図り、教育・学習・研究を 多方面から支援する。</p> <p>○購読雑誌、電子ジャーナル等を見直し、次年度資料購入の際の資料構成を考える。</p>
<p>【目標・計画に対する活動内容】</p> <p>○統計 2022 年度(2 月末日統計)</p> <p>【貸出】 学生図書貸出数・・・1,189 冊 611 人</p> <p>【相互利用】 文献複写・・・36 件 現物貸借・・・8 件</p> <p>【参考業務】 64 件</p> <p>○和歌山信愛女子短期大学図書館との連携:借受図書 6 冊、逐次刊行物 9 冊</p> <p>○和歌山市民図書館より団体貸出制度を利用し、授業・実習等で必要な絵本の蔵書をカバーした。(1 年期限:479 冊)</p> <p>○学生に向け、論文や資料など情報収集のための利用指導。(CiNii など)</p> <p>○教職員を対象にアンケートによる雑誌、電子ジャーナルの見直し。</p> <p>○昨年に続きデジタル教科書を 1 科目追加購入。4 科目整備。</p> <p>○インターンシップ 3 年生 1 名受入。</p> <p>○SPAA(統計)用パソコンの、図書館内での利用開始。</p>
<p>【自己評価】</p> <p>○開学より 4 年を節目に、ポータルアンケート機能を利用し、雑誌および電子ジャーナルの見直しを行った。次年度資料購入に向けて、よりニーズに近い選書となった。</p> <p>○図書館入館者が増加し、館外貸出と共に、館内での資料の利用も増加している。</p> <p>2021 年 2 月末:のべ 16,500 人 → 2022 年 2 月末:のべ 21,800 人</p>
<p>次年度の目標・計画(改善を含む)</p> <p>○絵本の読み聞かせの場など、外部に向けて行事開催の検討。</p> <p>○年齢に沿った絵本の計画的購入。</p> <p>○ブックハンティング開催の検討。</p>

令和 5 年 3 月 3 日

責任者職位・氏名 図書館長 木本 毅

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

学科・委員会・センター等

わかやま子ども学総合研究センター

今年度の活動目標・計画(改善を含む)

本学の建学の精神に基づき、子どもの心身の成長・発達・生活・文化・教育・福祉・子育て支援等を総合的に研究する子ども学に関して多角的に調査研究及び実施を行い、地域社会への知的還元と支援を多様に展開して公共の利益に貢献することを目標とする。

【目標・計画に対する活動内容】※具体例等

わかやま子ども学総合研究センタージャーナル4号の発行

わかやま子ども学総合研究センター公開研究集会の開催

地域関係機関との連携した研究活動

関係機関等への講演による支援や相談援助活動等

【根拠資料】

※令和4年度公開研究集会チラシ及びジャーナル4号

【自己評価】

ジャーナル4号への投稿原稿は7本であり、本学教職員、特別研究会員に加えて初めて和歌山信愛女子短期大学からの投稿もあり、広がりを見せている。

「わかやまの子どもの現状と課題について考える」をテーマに、教育と福祉の行政説明と4分科会による公開研究集会を開催し、連携した支援のあり方を検討した。

特別研究会員も19名の登録があった。

和歌山市こども総合支援センターとは公開研究集会を共催で行うとともに、日頃から交流活動を継続的に行った。学園祭においては、適応指導教室通級生を招待し、作品展示の場を設定することにより、一層交流を深めることができた。

日本教育会和歌山支部教育実践発表会で本センターの活動報告を行った。

次年度の目標・計画(改善を含む)

各活動を積極的に行うことにより、本センターの役割や意義を周知してもらい、地域や関係機関からのニーズに対応する開かれた研究・実践機関にしていきたい。

具体的にはジャーナル第5号の発行、公開研究集会の開催、地域や関係機関からの要請による相談や講演等による教育・相談支援活動を活発に行っていく。

和歌山市こども総合支援センターとの連携した企画を充実していく。

令和 5 年 2 月 12日

わかやま子ども学総合研究センター センター長 桑原 義登

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

### 学科・委員会・センター等

きょう育の和センター(地域連携委員会)

地域社会に開かれた大学として、さまざまな地域連携や産学官連携の総合窓口としてきょう育の和センター(地域連携委員会)を設置する。

### 今年度の活動目標・計画(改善を含む)

1. 和歌山県子育て支援研修員の企画・運営
2. 子どもフェスタ開催
3. 有田市との連携協定に関わる活動
4. 動画配信
5. わかまなび・子育て支援キャラバン隊の活動
6. 地域に係る正課の授業

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

### 【目標・計画に対する活動内容】※具体例等

#### 1. 和歌山県子育て支援研修員の企画・運営

子育て支援研修コーディネーター阪田さんときょう育の和センター委員森下順子准教授が中心となり子育て支援サポータを育成するための講座を信愛大学、和歌山市、田辺市の公共施設にて開催。

- ①子育て支援研修 和歌山市・田辺市
- ②子育て支援員専門研修放課後児童コース 和歌山市、田辺市
- ③子育て支援員専門研修地域児童コース 和歌山信愛大学
- ④子育て支援員専門研修放課後児童コース 和歌山市
- ⑤専門研修・子育て支援コース／利用者支援事業

学生は希望により講座に参加する。

#### 2. 子どもフェスタ

##### ①本町子どもフェスタ

オープンキャンパス同時開催とした本町子どもフェスタ

日時 10月15日(土)13:30~15:30

会場 和歌山信愛大学 体育館・3号館

参加者 0歳から12歳の子ども63名 保護者43名 合計106名



えんがわハウスのシャッターの絵画制作、わかまなびサークルによる子どもの遊び場コーナー、ぶらくりの素敵博物館、工作広場での活動などが行われた。それぞれのブースで学生が主体的に創意工夫した内容で、全力で来館者をもてなす姿は他大学では経験できない 素晴らしいものとする。1年生から4年生までが協働作業する中で、先輩の子どもへの対応や声かけにリスペクトを感じるような学びが出来たという声が多くあった。

えんがわハウスのシャッターの絵画制作、わかまなびサークルによる子どもの遊び場コーナー、ぶらくりの素敵博物館、工作広場での活動などが行われた。それぞれのブースで学生が主体的に創意工夫した内容で、全力で来館者をもてなす姿は他大学では経験できない 素晴らしいものとする。1年生から4年生までが協働作業する中で、先輩の子どもへの対応や声かけにリスペクトを感じるような学びが出来たという声が多くあった。

#### 3. 有田市との連携協定に関わる活動



## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

### ①有田市立保育所勤務の保育士研修

1 月 14 日（土）講師 桑原義登教授

演題 「相談支援の基礎的な枠組み」

1 月 21 日（土）講師 戸潤幸夫教授

演題 「豊かな感性を育む手立て」

実技演習 共同制作による現代アートを学ぶ

### ②子どもフェスタ IN 有田 の開催

共催 有田市・和歌山信愛大学

日時 2023 年 2 月 19 日（日）10:30~12:00

場所 有田市文化福祉センター

参加者 子ども 46 名 大人 52 名 計 98 名

学生スタッフ 19 名 教員 8 名 有田市 8 名 総計 133 名

#### 活動内容

ア 子育て広場

- ・ ペープサート・親子体操
- ・ 乳児スペース 絵本の読み聞かせなど
- ・ 縁日

イ 親子お絵かき広場 夢のお家を描こう オリジナルマスク作り

ウ 森下順子准教授による「子育て相談」 相談者 8 名

#### 4. 動画配信

今年度も紙パク人形劇が 9 本加わった。

根拠資料 2022 年度きょう育の和センター報告書 No. 4 参照

#### 【根拠資料】

※配布・公開したチラシ・議事録等

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

### 【自己評価】

コロナ禍3年目、学生と教員がいろんな環境を考慮しできる限りの成果を上げることが出来た。

※評価視点を含めたうえでの評価を行っても良い。

### 次年度の目標・計画(改善を含む)

子どもフェスタの開催地は、和歌山市、有田市、みなべ町等少しずつ拡大したいが、学生の現地移動について配慮したい。

令和5年3月4日

責任者職位・氏名

きょう育の和センター長 戸潤幸夫

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

**学科・委員会・センター等**

事務室(会計・総務・環境)・図書館・医務室・教学センター(キャリアセンター含む)

**今年度の活動目標・計画(改善を含む)**

- ①学生への学修支援(広報活動・入学・学生生活・授業の履修・キャリア活動・卒業)への継続的支援体制の構築と維持
- ②大学運営の事務(会計・総務・環境・図書館・医務室・教学センター(キャリアセンター含む))に関する体制の構築と維持
- ③大学施設・設備・備品の新設・維持・管理
- ④校内環境の維持管理体制の構築
- ⑤SD 活動の継続的体制の構築・維持
- ⑥【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書の作成及び審査対応
- ⑦地域貢献の実施

**【目標・計画に対する活動内容】※具体例等**

- ①大学案内等広報関係チラシの作成・オープンキャンパスの企画運営・入学試験の企画運営・新入学生を含む各学年ガイダンスの実施・年間授業計画の作成・キャリア関係セミナー・試験等の企画運営・就職の手引きの作成・就職関係ガイダンスの実施・キャリア関係授業の補助・学生の健康診断実施の企画運営及び結果の保管管理等を実施した。
  - ②会計・総務・環境・図書館・医務室・教学センター(キャリアセンター含む)に適切な人員を配置し、必要な備品・設備等を配備している。
  - ③排水管の破損修理、倉庫鍵の破損修繕、破損硝子の取り換え修繕、バスケットゴールの修繕等破損したものを適宜修繕し維持管理に努めている。
  - ④校内環境の維持管理体制の構築のために用務員を配置し、日々の清掃の実施
  - ⑤SD 活動の継続的体制の構築・維持  
事務職朝礼の実施、日々の学校行事等(事務的な行事も含む)の確認を行い、事務職員間の連絡体制を継続して構築する。教授会審議事項の内容確認及び各部署の対応について周知している。
  - ⑥【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書の作成を行い、面接審査の対応業務を行った。(9月)  
履行状況実地調査(文部科学省私学行政課法人係)における面接審査の対応業務を行った。(12月)
  - ⑦近隣幼稚園等へのグラウンド等の貸出、体育館の避難所・選挙投票所に提供
- 【根拠資料】**①(入試関係)大学案内、広報関係チラシ、OPC関係チラシ、入試関

## 自己点検・評価シート(2022 年度活動)

係各資料 (教務関係)各ガイダンス資料、学生便覧、履修のてびき、シラバス (キャリア関係)キャリア関係のチラシ等、就職の手引き(医務室)健康診断案内等

②和歌山信愛大学教職員名簿、固定資産台帳、監事監査報告書

③物品購入伺、修理伺等稟議済み書類、各法令点検に基づく結果報告書

④和歌山信愛大学教職員名簿

⑤事務職員朝礼実施のお知らせ、教授会議事録

⑥令和4年度設置計画履行状況等調査結果及び

令和4年度大学等設置に係る寄附行為(変更)認可後の財政状況及び施設等整備状況調査意見

⑦和歌山信愛大学 グラウンド利用、施設使用願、各依頼文書、協定書

【自己評価】①新型コロナ感染症拡大防止対策を行い計画通り実施できた。

②会計・総務・環境・図書館・医務室・教学センター(キャリアセンター含む)に適切な人員を配置し、必要な備品・設備等を配備している。また、今後も業務品質の確保の為に人的物的に継続的な補充等を行っていかねばならない。

③修繕工事は全て適宜実施できた。

④常駐用務員を配置。臨時の用務員も確保し繁忙期には応援作業を行っている。

⑤事務職朝礼を実施。教授会等の決定事項も口頭及び議事録にて示している。

⑥【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書の提出、9月には実地審査対応。

12月に行なわれた履行状況実地調査(文部科学省私学行政課法人係)に実地審査対応。

⑦大学施設の地域への貸出による地域貢献ができています。

次年度の目標・計画(改善を含む)

①学生への学修支援(広報活動・入学・学生生活・授業の履修・キャリア活動・卒業)への継続的支援体制の構築と維持

②大学運営の事務(会計・総務・環境・図書館・医務室・教学センター(キャリアセンター含む))に関する体制の構築と維持

③大学施設・設備・備品の新設・維持・管理

④校内環境の維持管理体制の構築

⑤SD活動の継続的体制の構築・維持

⑥地域貢献の実施

令和 4 年 3 月 10 日

責任者職位・氏名

事務長 塩崎 増仁

### 3. 令和 4 年度 F D ・ S D 活動

2023/03/31

## 和歌山信愛大学 2022 年度 FD・SD 研修会実施計画及び実績報告

自己点検評価委員会

下記の通り 2022 年度 FD・SD 研修会実施計画及び実績を報告する。

### — 記 —

#### ■ 年間計画

【担当者】立案、運営、資料保存・議事録(実施報告書)の作成を行う。

第 1 回 5/30(月)「建学の精神と信愛教育」講師:森田学長・星野先生【星野先生】

対象:本学教職員

場所:中講義室1

第 2 回 6/27(月)「いのちのメッセージ～生きる力と絆～」【桑原先生】

講師:岩崎順子先生

対象:本学教職員

場所:中講義室1

第 3 回 8/8(月)「教育研究についての研修」【中村俊之先生、秋吉】

対象:助手の方を含むすべての教員

場所:中講義室1

第 4 回 11 月下旬「授業改善に向けた取組(仮題)」【森崎先生】

対象:助手の方を含むすべての教員

○授業参観

○研究協議 11/28(月)15:30～16:30

第 5 回 3/13(月)「2022 年度のまとめと今後の課題(仮題)」【塩崎先生】

対象:本学教職員

場所:中講義室1

(注意事項)

※可能な限り全員参加が可能な実施時間を確保する。

#### ■ 実施にあたっての企画案審議

・【担当者】より教授会に企画案を起案し、学長の承認を得て実施する。

■最終結果報告(2023 年 3 月末日)

- ・第 4 回 11 月下旬「授業改善に向けた取組(仮題)」【森崎先生】については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で実施できず取りやめとした。
- ・第 4 回以外については、計画に基づき、2022 年度 FD・SD 研修会を計画通り実施した。

議事録等資料の保管場所

<https://shinai-u.cybozu.com/o/ag.cgi?page=FileIndex&gid=&fCID=39745>

以上